

急性腹症

夜間診療時には、腹痛をはじめとしてさまざまな疾患を伴った患者が来院する。腹痛の多くは、食道や胃腸などの消化器系の病気や泌尿器系の病気、女性では子宮や卵巣などの婦人系の病気に見られる。また、心臓病でもときに腹痛が見られ、食べ過ぎや飲み過ぎ、便秘、精神的な緊張からでも腹痛は起こりうる。画像診断においては、基礎的疾患やガスの状態把握には超音波検査やX線検査を行うことが多い。

急性腹症の初療時の注意

急性腹症の患者にはまず病歴をしっかりと聞くことが必要で、問診を行い次に触診や打診などの診察を行う。触診は腹痛のないところからゆっくり行い、臍径部までしっかり視診・触診を行う。臍径ヘルニア・大腿ヘルニアの嵌頓や精索炎・副睾丸炎なども見逃さないようにする。その後腹部超音波検査やX線検査を行う。腹部超音波検査は、腹部全体を見て閉鎖孔ヘルニアなどを見逃さないようにし、胸部、腹部（立位、臥位）は決められたルーチン検査法に従って行う。腹部の基本は仰臥位である。左側側臥位（デクピタス）撮影を追加する場合もある。

急性腹症の原因を診断するために行われる検査について

- ・触診：腹部の診察で多くの情報が得られる
- ・血液検査：炎症反応の程度、肝臓、膵臓、腎臓などの機能検査（胆嚢炎、膵炎、腎結石）、貧血の程度（消化管出血、腹腔内出血）を評価する
- ・尿検査：血尿（腎・尿管結石）、尿中アミラーゼ（膵炎）をチェック
- ・胸部・腹部X線検査：異常ガス像のチェックなど
- ・腹部超音波検査：腹水、虫垂腫大、膵炎、胆嚢炎、水腎症などの診断に有用
- ・腹部CT：特に造影剤を使用した造影CTは有用で、虫垂腫大、膵炎、腸管の壁肥厚など胆道系以外では腹部超音波より多くの情報が得られる。しかし、全身状態が悪いとき腎機能も低下しており造影剤が使用

できないこともある

- ・血管造影：腸間膜動脈閉塞症、消化管出血、肝臓からの出血を疑い、インターベンションが必要な場合に行う。診断目的では現在ほとんど行わない
- ・腹腔穿刺：腹水が貯留しているとき、その性状を把握するために行う

腹部X線検査（立位、臥位）のチェックポイント p30～35参照

- ☞ 立位は、横隔膜が十分に含まれるように撮影する
- ☞ 臥位は、恥骨部分、腎陰影が十分に含まれるように撮影する
- ☞ 側腹線条が観察できるような撮影条件にする

腹部超音波検査のチェックポイント

- ☞ 肝臓・胆嚢・脾臓・膵臓・腎臓など、実質臓器の形態異常の有無
- ☞ 胃・小腸・大腸などの管腔臓器の壁肥厚や内容物貯留異常の有無
- ☞ モリソン窩・ダグラス窩・膀胱上窩・肝表面などにおける腹水の有無・性状
- ☞ 子宮・卵巣など婦人科的異常の有無、卵巣嚢腫の有無
- ☞ 大動脈瘤の有無、総腸骨動脈瘤・内腸骨動脈瘤の有無

これらは腹部超音波検査では必ず全部チェックしなければならない。しかし、異常所見があるところばかりを見ていると他疾患を見落とすことがあるため注意が必要である。

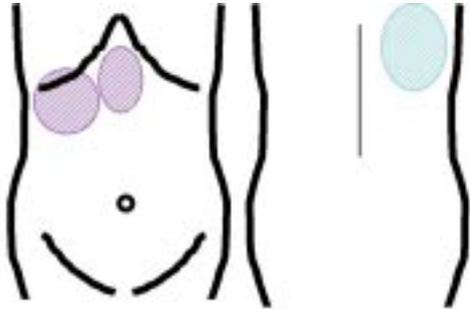
疾患を原因別に分類

- ・急性胆嚢炎
- ・急性膵炎
- ・胃十二指腸の穿孔
- ・急性虫垂炎
- ・大腸憩室炎
- ・腸閉塞（イレウス）

- ・泌尿器疾患：腎，尿管結石
- ・婦人科疾患：チョコレート嚢腫，卵巣嚢腫などの捻転，急性卵管炎
- ・悪性腫瘍によるもの

急性胆嚢炎

急性胆嚢炎の約95%は胆嚢結石が原因となり，炎症により壁が厚く拡張し，腹痛が出現する．超音波検査で腫大胆嚢内に結石を確認し，胆嚢壁肥厚と胆嚢に一致した圧痛が認められれば診断が可能である．約5%に結石を伴わないものがあり，無石胆嚢炎という．腫瘍などによる胆嚢管の閉塞や胆嚢動脈閉塞，長期絶食により，胆汁のうっ滞が起こり胆嚢炎を生じることがある．急性胆嚢炎に対して早期に手術を行う場合と，炎症鎮静後待機的に胆嚢摘出を行う治療法がある．



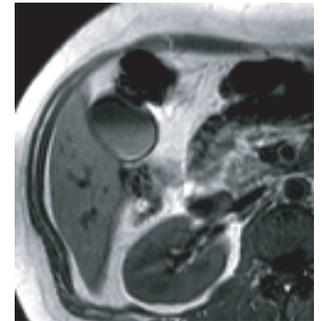
腹部CT検査時のチェックポイント

- ☞ 絶食状態か？（食事している場合はどれくらい経っているか）
- ☞ 胆嚢内部のCT値は上下2か所以上の値を測定する（胆泥の確認）（ ）
- ☞ 胆石のCT値は？ 大きさは？（150HU以上を石灰化とする．CT検査にて描出されない場合がある）（ ）
- ☞ 胆嚢および胆嚢壁の計測（7×3cmが正常で，8cm以上を腫大とする．3mm以上は壁肥厚）（ ）
- ☞ 胆嚢壁肥厚のときは壁の外側のCT値を！（急性炎症：水っぽい，慢性炎症：脂肪変性）（ ）

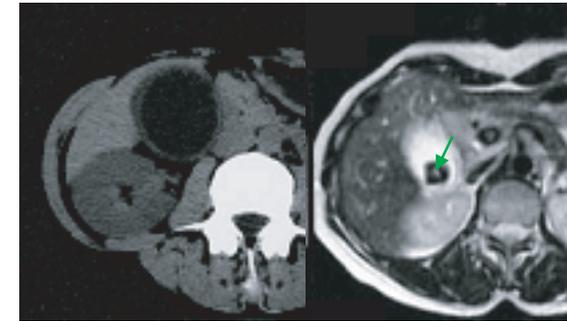


性炎症：脂肪変性）（ ）

症例 胆石（コレステロール結石） CT検査施行するが，結石は描出できず．MRI検査にて結石認めた症例（ ）．胆道系の結石はCTにて描出できない場合があり，結石を疑うときは超音波が優先される．



胆泥（MRI）



急性膵炎

膵臓の酵素が細胞の外に漏れ出して膵実質の破壊，脂肪壊死，膵出血などをきたす疾患で，膵臓のみならず他の臓器にも影響を与え，死亡率も50～80%ときわめて高い重篤な疾患である．症状は心窩痛から背中にかけて放散する激しい痛みが続く．特に暴飲暴食，飲酒，脂肪の多い食事後に起こりやすく，吐き気や嘔吐を伴うことがある．原因としては胆石膵炎，アルコール膵炎，特発性膵炎が1/3ずつを占める．腹部超音波検査にて膵腫大と膵周囲の浮腫を認める．通常の軽度の浮腫性膵炎であれば，絶飲食，抗生剤投与にて炎

